

JAPANESE SOCIETY FOR INTERNATIONAL NURSING

(JSIN)

国際看護研究会 第17回学術集会 抄録集

(第74回国際看護研究会)

## ヒューマンケア、民族・文化を超えて

会 長 : 磯邊 厚子 (聖泉大学)

日 時 : 2014年9月27日 (土) 10:00~16:30

会 場 : キャンパスプラザ京都 4階

(京都市下京区西洞院通塩小路下る)



国際看護研究会第17回学術集会事務局

〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町720番地

聖泉大学看護学部内, 京都橘大学看護学部内

E-mail: [kokusaikango2014@gmail.com](mailto:kokusaikango2014@gmail.com)

ごあいさつ

国際看護研究会第17回学術集会開催にあたって

国際看護研究会第17回学術集会  
会長 磯邊厚子 (聖泉大学)

本日は当学術集会にご参加下さり、誠にありがとうございます。日頃から「国際看護研究会」にご理解とご協力を頂いております皆様に心より感謝申し上げます。今回の学術集会は17回目を迎えました。これまで東京を中心に開催されていましたが、初めて関西で開催されることになり、様々な地域、人々に関心をもっていただく機会だと思います。

昨今、国際情勢の変化や食料の安全性にまつわる問題など、私たちの生活はこれらの問題を避けて通ることはできなくなりました。人の移動により疾病も移動しています。日本人が気をつけているだけでは、私たちの健康は守れなくなりました。すなわち公衆衛生上の危険は他の国々へも拡大することを想定し、それぞれの国で予防すると共に、他の国の予防にも貢献することが必要になってきました。

そして、将来、私たちが住む地球、国、地域のために何をなすべきか、を問うこと、それは自分が理解するだけでなく、様々な人々と課題を共有し、どう対応すればよいかを考えていくこと、そして周囲の人に伝えていく使命を私たちはもっています。

今回の学術集会ではまさしくそれらが抱合された貴重な話題が提起されています。国際的視野の育成をはじめ、地域の取り組み、看護の移動、途上国のヘルスの現状など、活発な意見交換や多大な示唆が得られる機会と思います。

シンポジウムでは、様々な国の人々の健康問題をフィールド実践者の方々に豊富な話題を提起していただきます。幅広くかつ活発な議論の場になればと思います。

また、今回、「学生フォーラム」と題して学生さんに発表の機会を設けました。学生さん方の新鮮な発表が、国際看護のさらなる飛躍の機会になればと思います。

最後になりましたが、学術集会の準備～実施までご奮闘していただいた委員の皆様、ボランティアの皆様に厚くお礼を申し上げます。

2014年9月27日

## ＜プログラム＞

### 【第1会場】

10:00 –10:05 オリエンテーション

10:05 –10:10 開会のあいさつ

10:10 –11:00

**基調講演**

**座長：竹下 夏美**

国際化時代の看護のパースペクティブ –主体性、社会性、公共性–  
第17回学術集会長 磯邊 厚子（聖泉大学）

11:00 –12:00

**一般演題 第1群「国際的視野の育成」**

**座長：成瀬 和子**

O-1 看護基礎教育における国際的視野を持つための取り組み  
—国際交流を取り入れての試み 第2報—

田村 葛枝

O-2 看護教育における「文化コンピテンス」の概念分析と国際看護研修プログラムの実践的導入

忍田 祐美

O-3 わが国の看護基礎教育における国際看護教育の現状と課題

中越 利佳

O-4 日本とアメリカの看護教育の違いについて

久木元 由紀子

12:00 –12:50 昼食・休憩

13:00 –13:30 平成26年度 国際看護研究会総会

13:30 -14:30 シンポジウム 「ヒューマンケア、健康格差へのとりくみー現場からの報告」

座長：磯邊 厚子

【シンポジスト】

- ケニア感染症対策プロジェクトへの参加を通じて 角野 文彦
- 外国人医療支援現場からの報告 村松 紀子
- Health status and health care system in Korea Myoung-Ae Choe
- 米国の健康格差の現状 久木元 由紀子

14:30 -15:30 学生フォーラム 「羽ばたけ未来のナースたち」

座長：磯邊 厚子

- S-1 インドネシア人のたばこに対する認識と行動に関する研究 岡本 優里
- S-2 アメリカ看護専門研修に参加して 谷口 悠月
- S-3 インドネシアの健康行動と受療・対処行動に関する研究  
—中部ジャワ州 KLATEN 県を事例に— 石川 真理子
- S-4 東北でボランティア活動を行って 八田 翔平

15:30 -16:30 一般演題 第4群 「途上国のヘルスの現状と看護の役割」

座長：國松 秀美

- O-13 マレーシアの看護師の役割 上村 有香
- O-14 途上国で家族が行う看護ケアと看護師の役割  
—ラオス人民民主共和国の看護師への自記式質問紙調査の分析— 齋藤 恵子
- O-15 スリランカ中央部州で活動するNGOの現状と課題 植村 小夜子
- O-16 フィリピンにおける学校保健の実情と課題 田中 祐子

16:30 -16:40 閉会のあいさつ

## 【第2会場】

11:00 -12:00 一般演題 第2群「海外研修の実践」

座長：齋藤 恵子

O-5 必修に位置付けた海外研修の実際とその成果 梶原 恭子

O-6 看護師のグローバル人材育成のための日泰交流の意義 大植 崇

O-7 ベトナムでの総合実習導入の評価と課題 鎌倉 美穂

O-8 タイの看護を学ぶ研修の実際と成果 梶原 恭子

12:00 -13:20 昼食・休憩

12:50 -13:20 青年海外協力隊説明会と看護職の活動ビデオ上映

14:30 -15:30 一般演題 第3群「国際化に向けた地域の取り組み」

座長：中越 利佳

O-9 結核を発症した学生への支援  
— 保健管理センターでおこなったDOTSについて— 田中 ゆり

O-10 地震・津波・放射線汚染による被害を受けた被災地3年後の現状 國松 秀美

O-11 日本における終末期看護のあり方について 桶河 華代

O-12 オランダの感染対策の現状 松永 早苗

15:30 -16:30 一般演題 第5群「看護の移動と相互協力」

座長：田村 薫枝

O-17 自国看護師の国際移動についての日本人看護師の認識 千葉 陽子

O-18 インドネシア人看護師・介護福祉士に関する現状と問題の文献検討 石井 千晴

O-19 看護大学生がサークルで行う国際協力活動の実際 清水 浴

P-1\* 在日インドネシア人看護師が臨床で直面する困難  
(第2会場に展示) 桑野 紀子

16:30 -16:40 閉会のあいさつ